


豊明市議会議長 殿

## 行政等視察報告書

議員名 一色 美智子 

28 年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告  
します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
平成 29 年 1 月 2 5 日	長崎県長崎市	「地域おこし協力隊」について
2 6 日	熊本県益城町	災害時における議員の役割・現地視察
2 7 日	鹿児島県鹿児島市	子育て交流館 りぼんかん

豊明市議事課  
29.2.-6  
分類 . . 30.10.5.1  
可・否・一部否・一部可  
第 59 号 受付

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

## 平成28年度 視察報告書

一色 美智子

平成29年1月25日（水） 長崎県長崎市  
「地域おこし協力隊」について

26日（木） 熊本県益城町  
災害時における議員の役割・現地視察

27日（金） 鹿児島県鹿児島市  
子育て交流館 りぼんかん

25日（水）長崎県長崎市 「地域おこし協力隊」について

長崎の地名はこの地が長い岬状の地形をしていたことから起こったと言われている。長崎の発展の歴史は元亀元年（1570年）ポルトガルの宣教師によって良港であることが発見され、翌年の1571年にポルトガル貿易港として開港。海外との交流や貿易で栄える。  
1989年4月市政施行、面積405,86 km<sup>2</sup>、人口435,014人、（男 202,591人 女 232,423人）老年人口比率24,87%



現在平成17年・18年度に合併した地域を対象として、市内5地区で取組みを行っている。

高島地区（旧高島町）

人口380人 高齢化率 52.4%

日本で最初に蒸気機関車を利用した洋式堅坑ができた所。  
高島炭鉱が昭和61年11月閉山となり、町の人口の激変、  
経済は崩壊、町の存亡の危機を迎えた。「石炭を魚にかえて島おこし」  
をキャッチフレーズに周囲に広がる 美しい海を活用する町おこしを  
島民一体となってはじめた。



主な取組みとして、高齢者への支援・定住促進のための空き家、  
遊休地の活用・地元水産物の島内流通システムの構築・市民農園の整備等

野母崎地区（旧野母崎町）

人口5,435人 高齢化率 44.9%

海水浴場など観光レクリエーションの場として多くの方に親しまれている。

年間平均気温18度 南国ムードを感じさせてくれる。

主な取組みとして、空き家及び耕作放棄田畑の活用・情報発信・地域資源の活用、廃校になった小学校の活用等



#### 伊王島町地区（旧伊王島町）

人口705人 高齢化率 49.1%

昭和16年の炭鉱開坑で人口が急増し、昭和37年の最盛期には人口7,300人となった。

リゾート施設「長崎温泉やすらぎ伊王島」を中心にリゾートの島として親しまれている。

主な取組みとして、高齢者への支援、放課後子ども教室への関わり・地元特産品の開発、販売支援・空き家及び遊休地の活用等

#### 外海地区（旧外海町）

人口3,749人 高齢化率 47.1%

日本の石炭産業が戦後復興に果たした役割や、池島の歴史を学習したりトロッコに乗って見学・探検ツアーを実施して、地域活性化を図っている。

主な取組みとして、産業遺産（炭鉱施設）観光のPR・特産品を開発している地域の活動支援・島内でお金が落ちる仕組みづくり等

#### 琴海地区（旧琴海町）

人口12,314人 高齢化率 31.5%

昭和40年代後半から長崎市のベッドタウンとして宅地開発が進み、人口も順調に増加してきた。

素晴らしい自然があり、海岸線と緑を活かした3カ所のゴルフ場やレクリエーションゾーンも数多くある。

主な取組みとして、移住定住希望者の支援・地域資源の活用・体験型観光の推進等

#### 隊員の待遇・福利厚生について

身分	非常勤の特別職	雇用期間	単年度（最長3年間更新可）
報酬	月額194,500円	勤務時間	週38時間45分程度

5地区の隊員どうしの意見交換会を月1回行っている。

地域おこしの活動ではなく、地域の課題解決に向けての活動が主で協力隊員は東京都・埼玉県・佐賀県などから来ており、仕事を辞めこの地域に住み活動、仕事をしている。任期（最長3年）が终えれば特別な待遇はない。この事業は平成30年で終了して 今後はオール長崎として考えていきたいとのことでした。

今回の視察で、地域おこしを今一度考える機会となり良かったです。

26日(木) 熊本県益城町

災害時における議員の役割・現地視察

熊本地震による益城町の被害状況

平成28年4月14日 21時26分頃

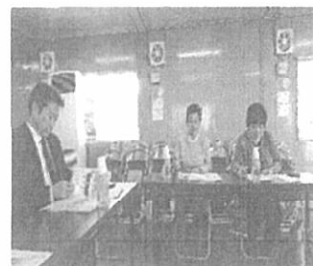
マグニチュード 6.5 (暫定値)

震度7 (益城町宮園)

4月16日 1時25分頃

マグニチュード 7.3 (暫定値)

震度7 (益城町)



人的被害 (1月24日現在)

	熊本全体	益城町
死者	145名	30名
行方不明者	0名	0名
重傷者	948名	116名
軽傷者	1,430名	31名

建物被害状況 (1月11日現在)

全壊	3,503件	大規模半壊	993件
半壊	2,730件	一部損壊	4,437件
総計	11,663件		



熊本は地震が少ないという事で企業誘致を進めていたとの事です。

子どもたちはPTSDになり、学校は午前中2時間もしくは午後2時間の授業を5月の始めまで行っていた。

益城町ではこの地震により本庁舎・議会棟も天井や壁が崩落し、平成28年第2回定例会(6月議会)の開催が平成28年7月26日となり、時間を延長し会期を1日間として開いた。

地震後の補正予算(復旧復興関係など)は専決処分により執行された。

復興費として一般会計予算は309億5,705万4千円になった。



益城町の議員数は18名 稲田議長の厚い思い、感じた事を伺う事ができとても良かったです。災害時に地域の方のために議員としてどう動くか、日頃の大切さを学びました。

地域の皆さんが混乱し、地域の公民館、空き地に避難をしてくる。パニック状態になっている。

5つの校区があり、各校区に議員がはりはりついて、議員も対策本部に様々な要望を言っていたが、混乱するため議長が窓口になり、対応をした。

住民が行政の不満を議員に言ってくるが、日にちが絶つにつれおちついてくる。

行政のパイプ役として動く。災害が起これば市民は不安になる、とにかく話を聞いてあげる事が大事。常日頃から顔が見える議員として活動をしていかなければならないと強く感じました。

命を助ける、命をつなぐを一番に考え、飲食、排せつ、情報、自助、共助、公助も大事だが、近助が一番大切になる。

役割分担をすることが必要と強く感じました。



27日（金） 鹿児島県鹿児島市

子育て交流館 りぼんかん



#### 設置の目的

子育て中の親の不安感や負担を軽減するとともに、子育て家庭や団体の活動をさまざまな角度からサポートする総合的な子育て支援の拠点施設。

この施設では「ひろがる笑顔、支えあう子育て」をコンセプトに、親子が気軽に集い相互に交流する場を提供するとともに、育児相談や子どもの一時的預かり、子育てに関係する情報の発信や関係団体等の連携・情報の共有を行い、地域の子育て支援機能のさらなる充実を図るとしている。

#### 施設の概要

名 称 鹿児島市すこやか子育て交流館（愛称 りぼんかん）

供用開始日 平成22年10月9日

#### 休館日、開館時間

休館日 毎月第1月曜日及び年末年始

開館時間 10:00～18:00

#### 施設の利用者

小学校3年生までの者及びその家族

妊娠中の者及びその者に同伴する者



子育て支援に係る活動を行う者  
子育てに係る相談等を希望する者

#### 主な機能

つどい・ふれあい・交流する

子育て中の親と子がつどい、ふれあう場を提供  
遊びやイベントを通じて、親子、異年齢、世代間の交流の促進



#### 遊び・学び・体験する

子どもたちが天候に左右されずに、思いっきり体を動かして  
遊べる場を提供  
遊びの中で学び、家庭ではできないことを体験できる機会を提供  
子育て中の親も共に考え、学ぶ機会を提供



#### 子育て相談・援助

子育てに関する相談や子育て支援の施策により、子育て中の親を援助  
子どもの一時預かりを実施（生後2か月から小学校就学前の子ども 10時～17  
時30分 一人当たり一時間500円 二人目以降は半額）

#### 子育てネットワークづくり

子育てグループの支援、育成、組織化を促進  
子育て支援施設や関係機関と連携し、社会全体での子育て支援を推進  
情報コーナーやホームページ等により子育て情報を発信



この施設は職員の厚生施設だったが、少子高齢化が進み子どもと子育て  
家庭を取り巻く環境が大きく変化する中、現市長の公約で誰もが安心して  
子どもを産み育てる事が出来る環境そして、社会全体での子育て支援の  
拠点として開館した。

施設の愛称である“りぼん”のようにつながり、市民みんなで子育てを支えあってい  
こうという願いが込められているそうです。

職員体制は市の職員が4名・嘱託職員として企画運営指導員5名・子育て支援員1  
4名、嘱託職員は残業がなく1日5時間45分の勤務時間だから、大変でも頑張れる  
そうです

今後の課題として、現在利用をして頂いている方の把握はできているが、利用がない  
方について訪問等を行っていないということでした。

現在あがってくる課題についてきちんとフィードバックができていない  
今後その仕組みづくりが必要と感じました。

厚生施設だったため温泉がありそこがプールになり、



依然プールだったところが砂場になり、また3階にあるみはらし  
カフェからは桜島が一望できるとても素晴らしい施設でした。  
本市の子育て支援センターを始め子育てに関連した施設、全てで子育て中の親子の方  
が安心して、安全に楽しく集え、より一層の相談体制等が構築が出来ればと思いました

